

Relationship With Society

【ドイツ】における活動

従業員が制作した5隻の木製ボートを
2つの保育園に寄贈しました

タケダ・ファルマ有限会社（TP社）は、設立25周年を迎えた2006年から、本社のあるアーヘンの市民団体や公共施設の支援を行っています。2008年度は、本社のある近くにある保育園に、寄付を行うとともに、運動場の遊具として木製ボートをプレゼントしました。このボートは、ベルリンでの営業会議の際に、従業員が制作し、色を塗ったものです。さらに「World Wide Takeda-ism Months」（P82参照）の活動として、保育園の運動場で、スタッフが色塗りを仕上げました。このような楽しい取り組みを通じて、よき企業市民としての活動を行うことができました。子どもたちが運動場の新しい遊具で楽しそうに遊ぶ姿を見ることは、なによりの喜びです。TP社では、今後もこのような活動を推進していきたいと考えています。



保育園の皆さんとTP社従業員

Stakeholder's Voice

TP社からいただくような寄付や寄贈がなければ、子どもたちに十分な楽しみを提供し上げる余裕はありません。寄付のおかげで、音楽や体育の授業を行ったり、バランスのとれた食事を与えられるようになりました。この保育園の子どもたちは全て社会的に恵まれない家庭に育ち、親たちには余裕がない場合が多いので、保育園で十分な楽しみを提供することは大変重要です。子どもたちはボートを大変喜んで、遊ぶのが待ちきれない様子でした。

Mittendrin 保育園園長 Nassim Navvabi



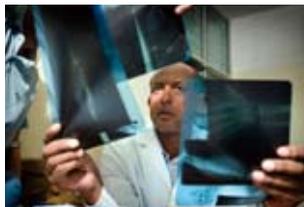
木製ボートに色を塗るTP社従業員

世界各国で、患者さんをサポートする活動に取り組んでいます。

【イタリア】における活動

アフリカの貧しい患者さんに貢献する「フライングドクターサービス」を支援しています

フライングドクターサービスは、1957年にケニアで設立された国際NGO「AMREF」（アフリカ医療・研究基金）による医療支援プログラムです。135以上の地方病院と連携しており、各病院を年間2～6回訪れて、西ヨーロッパと同程度の広さをもつ東アフリカに多く存在する恵まれない地域に、医療サービスを提供しています。完全装備の緊急用飛行機、医療スタッフ、航空機乗務員が24時間、緊急事態に対応できるように待機しており、2007年～2008年には、27,357回の診察と、8,200件の外科手術が実施されました。また、1,400人の医師と4,700人の看護師の訓練も行われています。タケダ・イタリア・ファルマ



Astrat Mengistre 医師

チェウティチ株式会社(TIF社)は資金援助を通じて、フライングドクターサービスの活動を支援しています。

Stakeholder's Voice

私たちのチームは、アフリカの僻地にある地方病院の巡回に情熱を注いでいます。そのような病院で外科手術ができるのは素晴らしいことで、患者さんたちは何マイルも移動して私たちを訪れます。私は、この1年間で80回飛行し、1,702件の診察と801件の手術を行いました。生まれた時から苦しみ続けている患者さんが多く、我々の手術により、絶望の淵にいる人々の人生を変えることができることに、私は誇りと喜びを感じています。

AMREF臨床専門医
Astrat Mengistre 医師



AMREFフライングドクターサービスの医療スタッフ、航空機乗務員

Relationship With Society

【英国】における活動

チャリティ・サイクリイベントを通じて
糖尿病の患者さん等への募金活動を行っています

英国武田株式会社（TUK社）の従業員は、北アイルランドで実施されるイギリス最大のチャリティ・サイクリイベントの一つ「Bangor Coastal Challenge」の運営、参加を通じて、糖尿病や脳卒中患者さんのために、50,000ポンドを超える寄付金を集めました。8年目を迎える2009年は6月21日に開催され、アイルランド全土から、臨床医を含む約700人の参加者が集まり、100kmにおよぶ壮大な海岸線ルートでレースが繰り広げられました。

このイベントはTUK社のボランティアの発案により始まったもので、開催準備は一年がかりの仕事となります。地元の地域団体と密に連携し、企業からの後援の確保や、必要な物流の手配なども行います。毎年集められる寄付金は、Ulster病院の糖尿病、心臓病および脳卒中治療室へ贈られます。



Roy Harper医師とTUK社従業員

Stakeholder's Voice

私は、開催準備チームの一年にもおよぶ熱心な支援活動をありがたく思っています。Ulster病院糖尿病科では、イベントで集められた資金を使って、患者さんが好きな場所からアクセスできるWebサイトを立ち上げ、情報の提供を行っています。「Bangor Coastal Challenge」と当病院が連携することで、糖尿病、心臓病、脳卒中といった病気の予防と治療に重要な役割を果たす、定期的な運動の大切さを広くアピールすることにもつながっています。

Ulster病院 内分泌科 顧問医
Roy Harper 医師



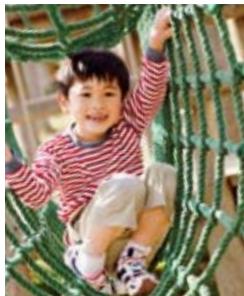
チャリティ・サイクリイベント「Bangor Coastal Challenge」

企業市民として、地域ごとの実情を
しっかりと踏まえた活動をサポートしていきます。

【日本】における活動

NPO法人 市民社会創造ファンドと協力して 長期療養の子どもたちの生きる力を応援します

タケダは、NPO法人 市民社会創造ファンドとともに、長期にわたり病気療養する子どもとその家族をサポートする市民活動を応援する助成プログラム「タケダ・ウェルビーイング・プログラム」を立ち上げました。近年の医療技術の向上により、たくさん子どもたちの生命が救えるようになりましたが、一方で、長い闘病生活を余儀なくされることもあります。その間子どもは成長し、家族の生活も続くため、医療だけでなく一人ひとりの子どもとその家族をトータルに支える連携や協力が大切となります。以上のような視点から、この助成プログラムでは、病気と闘う子どもとその家族の心理的・文化的・社会的な生活の質を向上させ、「生きる力」につながるような取り組みを応援していきます。



子どもたちの「生きる力」がテーマ

Stakeholder's Voice

子どもはさまざまな環境に出会い、さまざまな喜怒哀楽を経験することで大人として成長します。健康上の問題のために長期にわたって療養に励む子どもたちには、在宅であれ、入院であれ、多くの経験を得る機会がなかなか与えられません。そのような機会を、なんとか増やせないだろうか。すでにいろいろな取り組みがなされていますが、それらを応援することで、少しでも多くの病床の子どもたちに生きる力を与えたい。そんな思いから、この企画は始まりました。素晴らしい活動があちこちで育ってほしいと願っています。

市民社会創造ファンド運営委員長 山岡 義典



市民社会創造ファンド（左から）神山邦子さん／山岡義典運営委員長

Relationship With Society

タイにおける子宮頸癌プロジェクト

「ピープルズ・ホープ・ジャパン」(PHJ)は、特にアジアの開発途上国を対象とし、「保健・医療環境の向上」に向けて自立化支援を行っている認定NPO法人です。タケダは2005年度から、タイにおけるPHJの「子宮頸癌予防プロジェクト」を継続支援しており、2007年度から、チェンマイ県メリン郡、メタン郡で新たにスタートしたプロジェクトに対し、年間300万円の資金提供を行



タイにおける子宮頸癌検診

っています。2009年3月までに、地域の保健関係者・看護師などの知識向上、検査体制の強化にも取り組み、その成果は高く評価されています。

北海道マラソン・福岡国際マラソン

スポーツ支援として、2008年8月に「2008年北海道マラソン」に協賛しました。また、同年12月に開催された、2回目の協賛となる「第62回福岡国際マラソン選手権大会」は、2009年世界陸上競技選手権大会の代表選考会も兼ねており、例年にも増して高い注目を集めました。



第62回福岡国際マラソン選手権大会

ロンドン交響楽団のコンサートへの協賛

ロンドン交響楽団(LSO:London Symphony Orchestra)は、1904年に創設された、英国で最も古い伝統を有するオーケストラです。タケダは、伝統を守りながらも新しい音楽への追求を続けるLSOの情熱に共感し、「タケダ

グローバルコンサート」として1989年から協賛しています。2006年から2008年にかけて開催された第7回ツアーでは、日本を含め全世界で29公演が実施され、各地で好評を博しました。

LSOは、社会貢献活動にも力を入れており、病気や障がいなどの理由から会場に足を運べない方々を訪問して演奏するイベント「Musicians On Call」を日・米・欧で実施しており、タケダはこの活動を支援しています。2008年12月には、NPO「ファミリーハウス」と協働して、了源寺(東京・台東区)の本堂において、LSO楽団員の弦楽四重奏による「Musicians On Call」を開催しました。患者さんやそのご家族、ボランティアの方など、約70名が参加され、心ゆくまで美しい音楽を堪能されました。



了源寺で開催されたLSO楽団員による「Musicians On Call」

労働組合の取り組み

武田薬品労働組合でも、組合員皆さんの積極的参加により、ボランティア活動・災害支援活動・各種カンパ活動など、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。さらにはモンゴル国への支援活動も10年以上にわたって実施しています。「手から手へ」をコンセプトに、現地の学校に文房具・衛生用品などを寄贈するとともに、子どもたちとの文化交流も実施しています。



モンゴル国における学校支援

特集 生物多様性／水資源問題への取り組み

「生命」の輝きに満ちた「水の惑星」の環境を守るために、積極的な取り組みを進めています。



【生物多様性】

生物多様性の保全に関する基本姿勢

地球上には、3,000万種ともいわれる、さまざまな生物が存在しています。しかし、2005年に発表された国連「ミレニアム生態系評価」によると、現在の絶滅種の割合は化石から判断される太古の時代の1,000倍ほどで、将来的には現在の10倍以上になると推計されています。国連が定めた国際生物多様性年にあたる2010年には、愛知・名古屋において「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」の開催が予定されており、世界中から注目が集まっています。

タケダは、生命関連事業を営む企業として、早くから生物多様性の問題を重視し、「京都薬用植物園」における絶滅危惧種の保全を中心とした、着実な取り組みを進めてきました。また、COP10における課題の一つとされているABS（遺伝資源へのアクセスと利益配分）についても、グローバルに事業を展開する製薬企業として、重要な問題と認識しています。

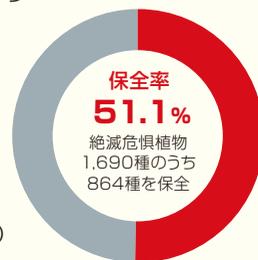
京都薬用植物園

「京都薬用植物園」は1933年に「京都武田薬草園」の名称で発足しました。現在、2,400種を超える貴重な植物を栽培しており、生物多様性保全に貢献するタケダの拠点として活動を推進しています。

2002年、生物多様性条約締結国会議において、「2010年に絶滅危惧植物種の60%をその国の施設内で保全する」という目標が掲げられました。これを受けて、世界植物園会議は「2010年に植物園でその国の絶滅危惧植物種の50%を保有する」という

目標を採択しました。「社団法人日本植物園協会」では、植物多様性保全拠点園ネットワーク

日本の植物園における「絶滅危惧植物」の保全率（2008年度）



Relationship With Environment

を構築してこの問題に取り組み、2008年度には、世界に先駆けて、日本の絶滅危惧植物の51.1% (864種)の保全を達成しています。

「京都薬用植物園」では、薬用植物の絶滅危惧種46種(同ネットワーク全体で161種)を含む82種を保有しており、日本における植物多様性保全に大きく寄与しています。栽培している絶滅危惧種には、生薬の基本である「基原植物」も多く含まれており、くすりづくりの観点からも、その保全に努めることは、極めて重要な意味を持つと考えています。

2009年5月には、将来の薬用植物の保有種拡充に向けて、標本・薬用植物資料を保管する事務棟の建替を中心とした園内整備に着手しました。今後も、生物多様性保全に関する活動を、積極的に推進していきます。

京都薬用植物園で栽培している「絶滅危惧植物」の一覧 (2008年度)

■薬用植物 (46種)

イワギク、エゾムラサキツツジ、エソヨモギギク、エビネ、オオカナメモチ、オオタニワタリ、オキナグサ、オグラコウホネ、オゼコウホネ、オナモミ、オニバス、カキツバタ、カクチョウラン、カサモチ、キキョウ、キブネダイオウ、サクラソウ、サルメンエビネ、シオン、シタン、シデコブシ、シラン、シロヤマブキ、センリゴマ、タイキンギク、タチバナ、チョウソウ、ツルラン、トキワマンサク、ニッケイ、ノウルシ、ナリヤラン、ハマビシ、ヒトツバタゴ、ヒロハノアマナ、フジバカマ、ホンバヤマシノ、マツバラン、マメナシ、マルバウマノスズクサ、ミシマサイコ、ムラサキ、モクバクコウ、モダマ、ヤマシャクヤク、ロクオンソウ

■薬用植物以外 (36種)

ウメウツギ、オキナワギク、カノコユリ、カンカケイニラ、ガンゼキラン、キイジョウロウホトギス、キエビネ、キバナイソマツ、キレンゲショウマ、キンロバイ、クスノハカエデ、クロフネサイシン、ケラマツツジ、ゲンカイツツジ、コウトウシラン、コシノカンアオイ、サカワサイシン、サギソウ、サンショウバラ、シナノアキギリ、シヨウドシマレンギョウ、ジツクウツツジ、センカクツツジ、タイワンホトギス、チャンチンモドキ、ナツエビネ、ナンゴクアオイ、ハナノキ、ハリツルマサキ、フジノカンアオイ、ホウライムラサキ、ホンバシヤクナゲ、マルバニッケイ、ミスミソウ、ヤマトレンギョウ、ユキモチソウ

[水資源問題]

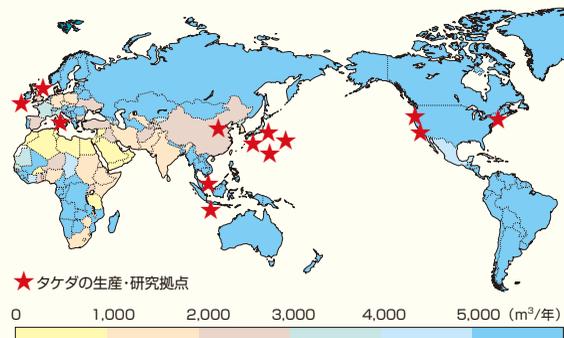
水資源問題に関する基本姿勢

水資源への需要が拡大するなか、世界各地で水不足が深刻な問題となっています。2009年3月にトルコのイスタンブールで開催された「第5回世界水フォーラム」では、「水の安全保障」を達成することをキーメッセージとした声明が採択されました。

タケダでは、国内外タケダグループの生産事業所・研究所において、水資源を再利用する施設を導入するなど、水使用量を削減する取り組みを行っています。また、水資源に関して大きなリスクを有している事業所はないと

考えていますが、製剤工場のある天津武田薬品有限公司(中国)については潜在リスクをもつ地域であると認識しています。水棲生物、生態系に対する医薬品の環境影響に関しては、ガイドラインに準拠し、申請段階での環境影響評価を実施しています。今後は、研究開発初期段階および市販後におけるリスク評価を行うことを検討中です。

世界における年間1人当たりの水資源量



国連食糧農業機関 (FAO) のデータベース「AQUASTAT2008」より作成

2008年度 水資源投入量	(km³)	
	上水	合計 (上水・工業用水・地下水)
タケダ	1,826	5,424
国内タケダグループ	2,298	7,587
海外タケダグループ	166	184

集計範囲:タケダグループ国内外の生産事業所・研究所

特集 気候変動への取り組み

タケダ最大の生産拠点である「光工場」における燃料転換等により、CO₂排出量の大幅な削減を実施しています。



光工場:瀬戸内海に面しており、環境との共生を大切にしています。



光工場:都市ガス対応型 新設ボイラー

地球温暖化防止に関する基本姿勢

タケダは、グローバルに事業を展開する製薬企業として、温室効果ガスの排出量削減に努めることは、重要な責務であると考えています。1974年に省エネルギー対策委員会を設立し、以来、30年以上にわたって、温室効果ガスの削減につながる省エネルギー活動を遂行してきました。現在、グローバルな視点に立ったさらなる対策と、新たな数値目標の検討を進めています。

また、タケダでは、世界中の企業に対して気候変動への戦略や温室効果ガスの排出量の公表を求めるCDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）等への対応を通じて、積極的な情報開示に努めています。

CO₂排出量削減計画と2008年度実績

タケダでは、2006～2010年度の5か年を対象期間とする「第9次省エネルギー計画」を策定し、2010年度にCO₂排出量について2005年度比40%減（タケダグループ全体で30%減）という目標を掲げて、効率的なエネルギー使用に向けた活動を展開しています。2008年度のタケダグループCO₂排出量は35万トンとなり、2005年度比28.5%削減となりました。

なお、日本製薬工業協会は、製薬企業各社の2010年度CO₂排出量を1990年度レベルに抑制する自主行動計画を定めていますが、タケダは2001年度より一貫して1990年度排出量を下回っており、2008年度は1990年度比44%削減となりました。

2008年度タケダグループ CO₂排出量

35万トン (2005年度比 28.5%削減)

Relationship With Environment

生産拠点における燃料転換

2008年度は、光工場において、重油から都市ガスへの燃料転換を含む用役供給体制の再構築を行いました。事業の再編による効果も合わせ、2009年度にかけて大幅なCO₂排出量削減(削減見込量101千トン-CO₂/年)を予定しています。光工場の用役供給体制の再構築にあたっては、環境省が実施する「自主参加型国内排出量取引制度(JVETS)」第4期参加企業として、基準年度排出量に関する第三者検証を経て、CO₂排出抑制設備の整備に対する補助金の交付を受けました。

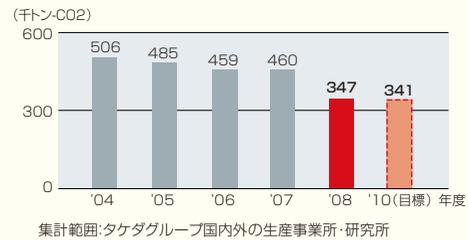
さらに、2009年5月から、天津武田薬品有限公司の工場において、石炭から都市ガスへの燃料転換(削減見込量2.2千トン-CO₂/年)工事を実施中です。

全社横断的な取り組み

2008年度に開始した、オフィスや営業部門を含めたタケダ「エコ」プロジェクトにおいても、温暖化防止対策につながる省電力・省エネルギーを重要課題としており、クールビズ実施による室内温度の管理、エコカーの導入、食堂の廃食用油のバイオディーゼル化など、きめ細やかな取り組みを進めています。

また、2010年度に竣工予定の新研修所(大阪府吹田市)において、「太陽光発電システム」(出力25kW)の導入を計画するなど、自然エネルギー活用の充実を図っています。

タケダグループCO₂排出量の推移



タケダCO₂排出量の推移



算定方法

■算定対象

CO₂排出量は、化石燃料の燃焼による直接排出および電気使用に伴う間接排出を対象としています。

■CO₂排出係数

国内の実績については、「エネルギー使用の合理化に関する法律」に基づいており、購入電力のCO₂排出係数は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」で定めるデフォルト値(0.000555t-CO₂/kWh)を使用しています。海外の購入電力のCO₂排出係数は、GHGプロトコルの各国ごとの係数を使用しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

タケダは、環境省が推進している「チーム・マイナス6%」に参加しています。



電気自動車の導入

タケダでは、2008年度中に、寒冷地仕様の4WDを除くすべての営業車の低公害化を実現し、現在、ハイブリッド車への切り替えを進めています。さらに、2009年度、東京都と神奈川県において、営業用社用車として50台の電気自動車の導入を進めています。2010年度以降、地域の特性に合わせて、電気自動車やハイブリッド車の導入を行い、低炭素社会づくりに向けてさらなる貢献を目指します。

「環境に関する基本原則」を理念として、管理体制を整備し、すべての事業活動を対象に諸施策を実施しています。

環境に関する基本原則

1.基本責務

研究開発から生産、流通、販売、調達、事務などのすべての企業活動において地球環境への影響を重視し、環境を積極的に保全し、向上させる。

2.資源・エネルギーの効率的利用と排出物の削減

省資源、省エネルギーを推進し、排出物の削減、リサイクルを積極的に行う。

3.製品・生産プロセスの環境影響評価

製品研究、技術開発にあたり、事前に、また常に、製品の研究開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境に与える影響を評価し、環境への影響を軽減する。

4.環境技術の開発と活用

環境保全・向上の技術を開発するとともに、新技術を積極的に導入採用する。

5.不測時の対応

環境に悪影響を与え、または与えるおそれがある場合、その回復、対策に迅速かつ的確に最善の努力をつくす。

6.責任の明確化

環境責任者を任命し、責任の所在を明確にする。

7.社会との共生

地域社会の環境保全向上活動に積極的に協力するとともに、公正・適切な情報を提供する。

8.教育と啓発

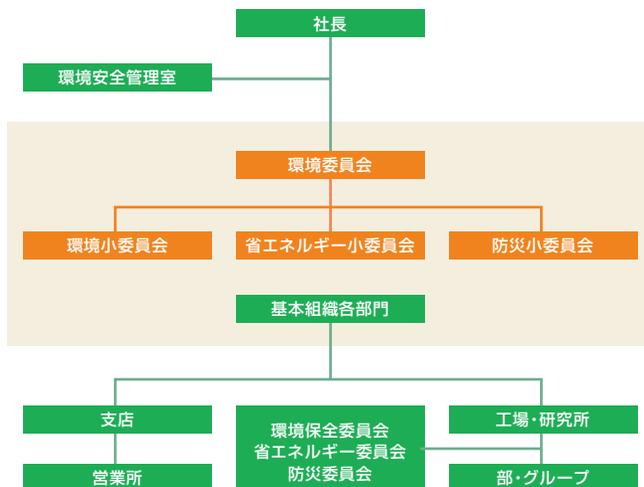
社員一人ひとりが日常の活動において、環境問題の重要性を理解し、自覚を持って行動できるように教育・啓発する。



基本原則を理念として、レスポンシブル・ケア活動計画ならびに年度方針を制定し、環境に関する諸施策を実施しています。

詳細については、ホームページに掲載しています。 http://www.takeda.co.jp/csr/policies/article_1007.html

環境安全管理体制



タケダでは、「環境に関する基本原則」に基づいた事業活動を推進するにあたり、各部門の環境責任者で構成される「環境委員会」を設置しています。「環境委員会」では、全社的な環境保全、省エネルギー、防災を含めた環境に関する問題を審議し、毎年の環境方針等を決定します。「環境委員会」の下には、「環境」「省エネルギー」「防災」の3つの小委員会を設置し、実務責任者レベルで、それぞれの事項に関する施策を推進、実施しています。さらに、工場や研究所には環境担当責任者を置き、中期計画や年度計画に基づいた具体的な活動を推進しています。

「ISO14001認証取得事業所」については、「CSR Data Book」(PDF版)に掲載しています。 <http://www.takeda.co.jp/csr/>

Relationship With Environment

2008年度 タケダの環境に関する主な方針と実績

テーマ	方針	実績	評価
環境問題への基本的取り組みの推進	遵法体制を推進するとともに社内基準値を遵守する。	法規制より厳しい社内基準値を管理値とし、定期的な環境測定を通して遵法体制を維持した。	○
省エネルギー・温室効果ガス排出量削減	2010年度までにCO ₂ 排出量を2005年度比で40%削減する。	2008年度のCO ₂ 排出量は231千トンで、2005年度比35%削減した。	○
廃棄物の削減	廃棄物最終処分量を2004年度の最終処分量を基準として、2010年度までに全社で30%削減する。	ゼロエミッション活動を推進した結果、2008年度の廃棄物最終処分量は74トンで、2004年度比75%削減した。	◎
	委託先における廃棄物の適正処理の確認を行い、排出者責任を果たす。	廃棄物処理委託業者（19社）を視察し、適正処理が行われていることを確認した。	○
化学物質の適正管理と環境への排出削減	化学物質の環境への排出量を2010年度までに2005年度を基準として50%削減する。	2008年度のPRTR対象物質の排出量は27トンで2005年度比40%削減した。	○
	化学物質の環境リスクを評価し、リスク低減を行う。	初期リスク評価を行い、各工場からの排出で大きな影響がないことを確認した。	○
教育・啓発活動の推進	環境問題について、全従業員の啓発活動を行う。	会報や社内イントラネットを活用するとともに、こども「エコ」コンテストの実施やライトダウンキャンペーンへの参加などを通じ、従業員の意識向上を図った。	○
	環境に関わるコンプライアンス教育を推進する。	社内イントラネットや法規制遵守状況確認表の活用などで、コンプライアンス教育を実施した。	○
地域社会への貢献	行政、住民とのコミュニケーションを図り、地域の生活環境の維持向上に努める。	工場周辺の住民の方に「環境モニター員」としての情報提供を依頼し、問題のないことを確認した。騒音に関する苦情が3件発生したが、いずれも直ちに对应し、再発防止に努めた。	○

集計範囲:大阪工場、光工場、筑波地区研究部門 (CO₂排出量は本社、東京本社含む)

2008年度 タケダの防災に関する主な方針と実績

テーマ	方針	実績	評価
防災管理の強化充実	防災に関する法規制を遵守し、防災管理体制を強化充実する。	規則・要領類の見直しを行い、各部門への周知、教育などを通じ、防災管理体制を強化した。	○
	非定常作業マニュアル、防災マニュアルを活用し、事故や災害を防止する。	非定常作業マニュアル、防災マニュアルの見直し、必要に応じた改正および新規制定を行い、事故防止に努めた。	○
	設備・配管の定期的な点検および保守、老朽化設備の計画的更新、および休止設備の安全確保を図る。	老朽化設備および休止設備を点検し、計画的な更新、安全対策を実施した。	○
防災対策の強化	静電気対策の徹底と安全確認により災害を防止する。	機器類の接地抵抗、漏洩抵抗および帯電電位を定期的に測定して対策の有効性を確認し、事故防止に努めた。	○
	可燃性物質の危険性排除対策と安全確認を徹底する。	窒素シール設備機器等の定期点検で、対策の有効性を確認し、事故防止の徹底を図った。	○
	重要設備、建物の地震対策を強化し、地震による被害の拡大防止に努める。	転倒落下防止対策を徹底するとともに、重要設備について耐震安全性評価を実施、耐震化工事を計画的に実施した。	○
防災教育の充実	事業所、製造現場の特性を生かした防災教育・訓練により防災技術・手法の習熟を図り、計画的に伝承する。	非定常作業マニュアル、防災マニュアルを用いた教育・訓練を計画的に実施し、防災技術の伝承を図った。	○
	協力会社等の防災教育の徹底を指導する。	関連業者に対する安全防災教育を徹底し、事故災害の発生防止に努めた。	○

武田薬品グループ環境防災業務基準

タケダでは、国内外グループの生産事業所・研究所が環境防災業務を行う際の統一した基準として「武田薬品グループ環境防災業務基準」を制定しています。これは、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の規定に準じた内容に加え、防災管理分野も含め、より具体的な業務の基準を定めており、「環境防災監査」を通じてその適合状況を検証しています。なお、「ISO14001」については、現在、日本国内のすべての生産事業所で認証を取得しています。

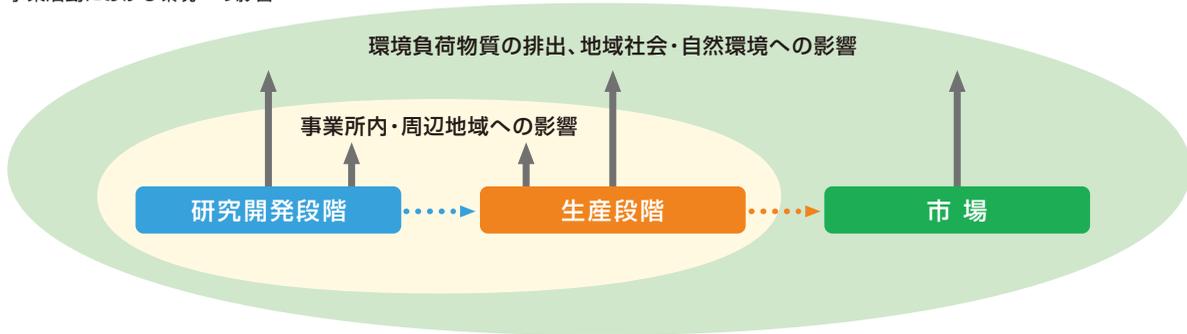
レスポンシブル・ケア活動

レスポンシブル・ケア活動とは「責任ある配慮」とも訳される、事業者による化学物質の管理に関する国際的な自主管理活動で、現在53か国に活動が広がっています。その目的は、化学物質を取り扱う過程における「環境」「安全」「健康」を確保することであり、タケダは日本レスポンシブル・ケア協議会発足時の1995年からレスポンシブル・ケア活動を実践しています。



「武田薬品グループ環境防災業務基準」に基づいて、 環境リスクを低減する取り組みを継続実践しています。

事業活動における環境への影響



環境リスク低減の取り組み

タケダでは、製品としての医薬品を含め、多種類の化学物質を取り扱う企業であることを認識し、環境面と防災面から、環境リスクを可能な限り低減する体制を構築しています。「武田薬品グループ環境防災業務基準」に基

づいて、事業活動の各段階における環境防災業務を遂行するとともに、継続的な環境防災監査によって、その取り組みが適切に行われているか徹底的にチェックしています。

	環境リスク低減に関する課題など	取り組み内容の詳細
研究開発段階	<ul style="list-style-type: none"> ● 医薬品は一般の化学物質と比較した場合、使用量は少なく、環境負荷は小さいと考えられます。しかし、生理活性物質であり、分析技術の向上とともに環境中の残存医薬品の問題が指摘されるなど、医薬品が生態系に及ぼす影響を把握することも求められています。 ● 米国食品医薬品局 (FDA)、欧州医薬品審査庁 (EMA) が定めた医薬品の環境影響評価に関するガイドラインでは、新薬の承認申請時には有効性や安全性のデータとともに、環境影響評価データの提出が義務付けられています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 申請準備段階の新製品について各国のガイドラインに則して適切な対応を進めています。 ● 新製品や新生産プロセスの開発に際し、製品が生産・使用され、廃棄物として処分されるまでのライフサイクルにおける環境影響を、省エネルギー、廃棄物発生量、化学物質の排出、資源枯渇防止等の観点から「製品・生産プロセスの環境影響評価表」に基づいて評価し、環境にやさしい製品や生産プロセスの開発を行っています。
生産段階	<ul style="list-style-type: none"> ● タケダの事業活動において、最もエネルギーを使用し、環境負荷物質を排出するのは生産段階であり、環境リスク低減の取り組みを重点的に進めています。 ● グローバル生産拠点におけるエネルギー使用量、廃棄物発生量などの環境負荷量を正確に把握し、事業所ごとに具体的な活動推進計画に基づく削減活動を推進しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 化学物質管理では危険物、毒劇物の適切な保管管理の徹底やMSDS (化学物質等安全データシート) の整備を行うとともに、環境への排出量の把握と削減への努力を行い、国内ではPRTR法に基づく行政報告をしています。 ● 地球温暖化問題に対しては、第9次省エネルギー計画において数値目標を設定し、省エネルギーや、より温室効果ガス排出の少ない燃料への転換を進めています。 ● 各生産拠点では、定常時の防災対策と、地震、火災発生時などの緊急時に備えた防災対策を行うことで、地域社会や自然環境に与える影響を抑制する努力を重ねています。
市場	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者さんに医薬品を提供した後の容器包装のリサイクルや、営業活動などに使用する業務用の車両に関する環境負荷低減を進めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 容器包装リサイクル法など各国の規制に従い適切な処理に努めています。 ● 営業車の「低公害車導入率」は、寒冷地仕様の4WDを除いて100%となっています。

Relationship With Environment

環境防災監査

ひとたび環境汚染を起こしたり、設備災害が発生したりした場合の周辺地域に与えるダメージは計り知れません。タケダは、環境・防災面のリスクを社内の専門家がチェックすることにより、徹底したリスク管理を行う「環境防災監査」をグループ全体で実施しています。また、各事業所の業務が「武田薬品グループ環境防災業務基準」に適合しているかを自ら検証する「内部監査」を、全事業所で実施しています。

「環境防災監査」は、社内の監査担当者が事業所ごとに提出される統一書式記入表の事前評価を行った後、事業所を訪問し数日間におよぶ監査を実施します。「環境防災監査」における指摘事項については対策の進捗報告を義務付け、しっかりとフォローを行っています。また、監査結果は監査報告書にまとめ、経営層に報告しています。

2008年度は、関係会社を含め国内6事業所と海外1事業所の「環境防災監査」を実施した結果、特に重大な指摘事項はありませんでした。



和光純薬工業株式会社における環境防災監査

防災への取り組み



光工場における防災訓練

タケダでは、年度ごとに「防災方針」を策定しています。各事業所では、方針に基づいた具体的な計画を定め、ハード・ソフトの両面から防災活動を推進しています。ハード面では、老朽化設備の計画的保全など、設備管理を徹底するとともに、静電気や可燃性物質への対策により、災害防止を図っています。ソフト面では、「防災マニュアル」のさらなる充実、「非正常作業マニュアル」の整備に努めています。これらの防災対策は国内外タケダグループの生産事業所全体で実施しています。

一方、タケダでは、製造プロセスにおける火災・爆発に対する安全性を高めるためには、「くすり」の物理化学的な性質を把握し、その性質に見合った方法で製造が行われることが重要と考えています。そのため、研究開発の初期段階から、医薬品候補化合物やプロセスの危険性評価を行っていますが、より安全性を高めるため、プロセス評価を見直し、改善を図りました。

2008年度には光工場におけるビタミン部の製造設備の撤去を行い、現在、新研究所（神奈川県藤沢市・鎌倉市）の建設という大規模な工事を進めています。何よりも環境リスクの低減を重視し、事故や災害の防止対策を徹底しています。

廃棄物・化学物質排出量の削減に努めるとともに、 タケダグループ全体で、大気・水質の保全に取り組んでいます。

廃棄物削減

タケダグループにおける廃棄物削減の基本姿勢は、廃棄物発生量を削減することに加え、事業所内での有効利用と減量化を図るとともに、社外での再資源化を促進し、最終処分量を削減することです。これによって、循環型社会の形成に貢献することを目指しています。

タケダは、1993年度から継続して廃棄物削減活動を推進してきました。2006年度からは、第4次削減活動をスタートさせ、「産業廃棄物および一般廃棄物の最終処分量を2010年度までに2004年度比で30%（国内グループの生産事業所・研究所で20%）削減する」ことを目標とし、最終処分量の削減に取り組んでいます。



光工場 資源化ステーションでの分別作業

各事業所では、分別回収によるリサイクルを徹底し、委託した廃棄物を再資源化などで有効利用する処理業者を優先的に選定するなど、最終

処分量の削減に努めました。2008年度の最終処分量は74トンで、2004年度比で75%の削減となり、目標を大幅に上回る削減を達成しています。

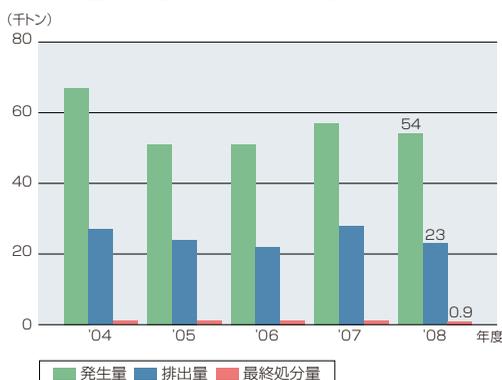
2008年度の国内グループの生産事業所・研究所の最終処分量は779トンで、2004年度比で28%の削減となり、目標を前倒して達成しました。

処理を委託した廃棄物については、不法投棄などが起きないように、産業廃棄物管理票（マニフェスト）で適正に管理するとともに、定期的に処理委託先を視察し、チェックリストを活用して問題のないことを確認しています。

2008年度 タケダの廃棄物削減実績

2004年度比 **75%削減**（最終処分量 74トン）

廃棄物発生量・排出量・最終処分量の推移



集計範囲: タケダグループ国内外の生産事業所・研究所
廃棄物: 一般廃棄物、産業廃棄物、有価物の合計

今後も、発生量の抑制やさらなる再資源化の検討など、引き続き徹底した廃棄物削減活動をタケダグループ全体で推進していきます。

ゼロエミッションへの取り組み

タケダでは、ゼロエミッションを「産業廃棄物と一般廃棄物の発生を削減するとともに、発生した廃棄物の再資源化を進め、埋立処分量を限りなくゼロに近づける活動」と定義し、工場において2007年度より本格的に推進しています。一般廃棄物の分別回収の徹底や廃液の再資源化などの取り組みを進め、目標達成に向けて、着実な成果が上がっています。



事務用品リサイクルキャンペーン

	2010年度目標値	2008年度実績
最終埋立処分量率	0.5%以下	0.3%
直接埋立処分量	0	4トン
再資源化量率	80%以上	85.5%

Relationship With Environment

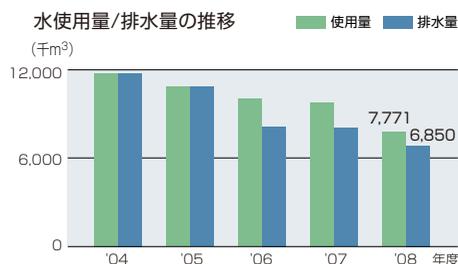
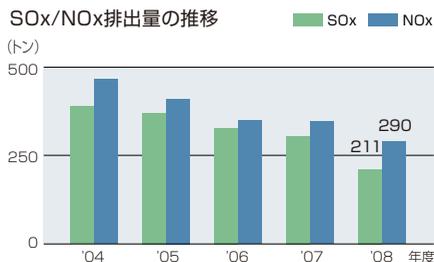
化学物質排出量の削減

タケダでは、「PRTR対象物質の大気への排出量を2010年度までに2005年度比で50%削減する」ことを目標とし、比較的多く使用している化学物質を優先的に削減対象として、適正管理に取り組んでいます。2008年度のPRTR届出物質は、タケダグループ全体で60物質となりました。PRTR届出物質排出量は60トンで、前年度に比べ46%削減しました。なかでもアセトニトリルの大気への排出量は、設備の改善や生産減少などにより、74%削減と大きく寄与しています。大気排出量が最も多かったのはジクロロメタンで22トンでした。次いで、トルエンが10トンを超えていました。公共用水域への排出は、0.5トンでした。

2008年度 タケダグループのPRTR届出物質排出量 削減実績
2006年度比 **46%削減** (届出物質排出量60トン)

大気・水質の保全

タケダは、各事業所において法規制値、条例や地域協定値よりも厳しい社内基準値を設定しています。そして定期的な環境測定を通じて、社内基準値を遵守しています。定期測定で社内基準値を上回る項目が発見された場合は、直ちに原因を究明、これを改善し、問題のないように努めています。これは「武田薬品グループ環境防災業務基準」にも定めており、国内外の全事業所で同様の管理を行っています。騒音や悪臭についても定期的な測定を実施し、問題のないことを確認しています。



集計範囲:タケダグループ国内外の生産事業所・研究所

「PRTR大賞2008 優秀賞」を受賞 (光工場)

光工場が、社団法人環境情報科学センターが主催する「PRTR大賞2008 優秀賞」を受賞しました。「PRTR大賞」は、率先して化学物質管理を行い、市民の理解を得るためのリスクコミュニケーションを積極的に推進し



て優れた成果をあげている企業を顕彰するもので、2004年に創設されました。今回の受賞を機に、タケダグループ全体での環境リスク低減に向けた取り組みを、より一層徹底していきます。